（様式２・中学校用①）

令和７年度　学　校　評　価　報　告

草加市立谷塚中学校
（令和８年２月５日作成）

１　学校教育目標

○学び合う生徒（知）　○思いやる生徒（徳）　○高め合う生徒（体）
校訓「文武両道」

２　重点目標・努力目標	３　前年度の成果と課題
１　信頼される学校 ２　確かな学力の育成 ３　豊かな心の育成 ４　健やかな体の育成 ５　教育課程の改善	＜成果＞ ○幼保小中を一貫した教育では、３つの部会を中心に授業研究や研修を進め、その研究内容についての研究発表を行った。また、中学校区内の児童生徒の自己肯定感や自己有用感を高めることにつながった。 ○教育活動全般を通して、生徒が主体的に活動に励むことができている。特に、生徒会主催の行事では、生徒が主体となって企画・運営に取り組み、生徒一人ひとりが達成感を感じることができた。 ＜課題＞ ●生徒の小さな変化やいじめの兆候を見逃さないための組織的な支援体制を確立し、配慮を要する生徒一人ひとりへの個に応じた指導を計画的に実施していく。 ●全国・県・市の学力学習状況調査の結果から、学習内容の定着や学力の伸びに課題が見られるため、教員による指導方法を改善し、授業内での基礎・基本の定着を徹底し、学習に対する生徒の不安を払拭させる。 ●安全面について、校舎や設備の老朽化が見られるため、日々の安全点検や安全指導を徹底し、大きな事故を未然に防ぎ、生徒の安全を確保していく。

４　評価表 ※評価基準〔Ａ：十分達成している　Ｂ：おおむね達成している　Ｃ：やや不十分である　Ｄ：不十分である〕

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題　○成果　●課題
Ⅰ　学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	A	○教職員一人一人の尽力により、円滑な学校運営が行えており、生徒が主体となった教育活動を学校全体で組織的に取り組んでいる。 ●職員間で負担感に差が生じている現状が続いているため、今後も分掌の偏りの是正に努める。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	B	○昨年度の委嘱研究を土台とし、自己肯定感や自己有用感を高めるための授業や学級経営の改善を推進することができた。 ●研修内容について、昨年度を踏襲したものもあるため、職員や時代のニーズに合った研修を計画・実施し、職員の指導力向を推進していく。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○養護教諭や保健主事を中心に、いのちの学習や歯磨き指導などの保健指導に学校全体で取り組むことができた。 ○学期ごとに避難訓練を実施し、火災・震災・不審者侵入を想定した訓練を実施することができた。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	B	○盗撮防止等に関わる校内規定を策定し、HP等で周知することができた。 ●タブレットPCの持ち帰りについて、校内規定は策定されているが、校内での保管の仕方が乱雑になりつつあるので、生徒・職員ともに共通理解を深めていく。 ●タブレットPCを始め、多くの情報機器に経年劣化が見られ、点検・修繕等に時間を要した。
	⑤地域との連携 開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化	A	○年４回、学校運営協議会を開催し、本校の教育活動等について説明し、学校運営に関する助言を頂くことができた。 ○全校保護者会や公開授業を土曜日に設定することで、多くの保護者が来校し、学校の様子を参観する機会を設けることができた。 ●PTA活動について、時代のニーズに応えつつ、保護者、職員ともに負担感なく活動が行える環境をつくり、地域に誇れる中学校を学校全体で目指していく。
	⑥幼保小中を 一貫した教育	・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり	B	○幼保小中連絡協議会を開催し、連携内容について協議したり、各園各校の取組についての情報交換を行ったりすることができた。 ○音楽朝会や体験授業等の小中を連携した行事を行うことができた。 ●働き方改革と教育活動の両立を図るためにも連携内容等を精査していく。

（様式２・中学校用②）

草加市立谷塚中学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題　○成果　●課題
Ⅱ　教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	・15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 ・教育計画の作成 ・教育活動の評価 ・目標、方針の周知 ・授業時数の配当、確保	A	○学校教育目標を達成に向け、各学年で生徒の実態に合わせた計画を作成・実践することができた。また、各行事等で生徒が主体的に活動する姿が見られた。 ●授業数の偏りを是正することに努めているものの、依然として出張等の自習対応で、一部職員に負担が集中する現状が続いている。学年を超えて対応する等、より一層の負担軽減策を図る。
	②教科指導	・指導計画の立案 ・主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 ・評価、評定の工夫 ・外部人材の活用	B	○各教科で全国・県の学力学習状況調査の結果を分析した内容を教員間で情報共有し２・３学期の指導に活かすことができた。 ●若手の職員を授業等の指導に不安のある教員も少なくないため、教員間で指導法を共有したり、授業見学を行ったりする等、研鑽しやすい環境づくりを進めていく。
	③道徳教育	・全体計画の作成 ・各教科との関連 ・道徳的実践力の育成 ・家庭、地域社会との連携 ・いのちの教育の推進	A	○ローテーション授業の実践により、より多くの職員と関わることで、生徒の道徳心の育成の一助とすることができた。 ●教員同士が授業を見学したり、指導方法を議論したりできる環境を整え、道徳教育の推進に努めていく。
	④特別活動	・指導計画の立案 ・学級活動、学級経営 ・学校行事 ・生徒会活動	A	○各学年・各学級の生徒の実態に応じて、学校行事や学級会などを計画し、生徒が主体的に活動する場面が多く見られた。 ●昨年度までの委嘱研究で取り組んだ内容を引き続き活用し、話合い活動や協働的な学びの場の拡充に努める。
	⑤「総合的な学習の時間」の指導	・指導計画の立案 ・指導内容の充実 ・指導方法の工夫と改善 ・評価の工夫 ・地域の人材・物的資源の活用	A	○各学年の生徒の実態に応じた探究的な活動や進路・キャリア教育に取り組むことができた。 ○昨年度を踏襲し、人との関わり方等のスキルトレーニングを組み込むことができた。 ●年間指導計画に基づき、３年間を見通した活動を計画的に進める必要性を感じた。
	⑥生徒指導	・組織的な生徒指導 ・問題行動への対処 ・教育相談、生徒理解 ・いじめ防止対策 ・保護者、地域、諸機関との連携	A	○問題行動等に複数職員で指導にあたる、不登校傾向にある生徒の情報を共有する等、組織的な指導体制の確立に努めることができた。 ○学習室、相談室、支援室、オンライン学習等、生徒の実態に合わせた支援を連携して行った。 ●中１ギャップを感じる生徒に対して、小学校までに学んできたことを認め、自己肯定感や自己有用感を高める等、生徒一人ひとりに合わせた個に応じた指導の拡充に努める。 ●教員の異動に伴い、教員それぞれの指導に差が出てしまう場面があったため、教員間の共通理解・共通行動をより深めていく。
	⑦キャリア教育	・組織的なキャリア教育 ・指導方法の工夫と改善 ・啓発的経験の充実 ・進路情報の収集・活用 ・職場体験活動	B	○総合的な学習の時間を活用し、３年間を見通したキャリア教育の推進に取り組むことができた。 ●職業体験について、事業所への連絡調整等に時間を要した。今年度の実施内容や反省点を確実に引き継ぎ、次年度の活動がより良いものにしていく。
	⑧特別支援教育	・個別の指導計画、支援計画 ・指導方法の工夫と改善 ・通常学級との交流 ・諸機関との連携 ・校内支援体制の整備	A	○特別支援コーディネータを中心に、学校全体の適切な支援体制を確立することができている。 ○生徒一人ひとりの個性を認め、理解し合える環境が学校全体で整っている。 ●通常級にも支援を要する生徒も在籍しているため、教員間の連携を密にし、個に応じた指導を行える環境づくりに努める。
	⑨学校図書館教育	・指導計画、支援計画の作成 ・図書館補助員の活用 ・諸機関との連携 ・図書館の整備 ・図書館利用の工夫	A	○読書推進運動について、図書委員を中心に行うことができ、図書館利用者を増やすことにつなげることができた。 ●図書館の備品が乱雑に扱われないように、その取り扱いに十分に気を付けていくことを周知徹底する。
	⑩情報教育	・教育計画の作成 ・校内研修の充実 ・ＩＣＴ機器の積極的な活用 ・情報モラル教育の推進	A	○AIドリルを全学年に導入し、朝自習や授業等で生徒一人ひとりの実態に合わせて活用することができた。 ○タブレットPCを活用した授業を各教科で取り入れることができた。 ●情報機器の取り扱いに関するルールの周知徹底を行い、教員間の共通理解を深める。
	⑪人権教育	・全体計画の策定 ・各教科との関連 ・人権感覚の育成 ・校内研修の充実	B	○生徒一人ひとりがお互いを尊重し、お互いを大切にしようとする意識をもって学校生活を過ごすことができている。 ○学校図書館に人権教育に関する本を集めた特設コーナーを設置した。 ●教員や保護者向けの研修・学習会の機会が少ないため、人権について学ぶ機会を増やしていく。

（様式２・中学校用③）

草加市立谷塚中学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題　○成果　●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	○個に応じた適切な支援 （不登校対応、 教育相談、 いじめ防止　等）	・組織的な支援 ・研修計画 ・学校全体での支援体制の構築及び拡充	A	○生徒一人ひとりの自己肯定感や自己有用感を高めるため、年間指導計画にスキルトレーニングを取り入れ、学校や学年の事態に合わせた指導を行うことができた。 ○相談室や学習室を利用した学習支援やオンライン学習の拡充を行うなど、生徒一人一人の実態に合わせて様々な学習支援を行うことができた。 ●発達指示的生徒指導に力を入れ、いじめの未然防止に力を入れていく。合わせて、生徒指導部を中心に組織的な対応に取り組み、学校全体でいじめ防止に努めていく。 ●より良い支援を継続して行うために、日々の生徒の情報交換を密にし、生徒一人ひとりの実態の把握に学校全体で取り組む。
	○学校間連携教育の推進	・中学校区内の小学校との連携及び交流 ・近隣地域の幼保との連携及び協力	A	○中学校区内３校（谷塚中・谷塚小・氷川小）による小中合同研修会を８月に実施し、小中の教職員が交流できる機会を確保することができた。 ○幼保小中連絡協議会を６月に開催し、近隣の幼保小中の１１園３校が参加し、各園・各校の取組について、情報共有を図ることができた。 ●目指すこども像の実現にむけた具体的な取組について、中学校区内で協議を行い、連携を図りながら進めていく必要がある。

５　総合評価（学校関係者評価を含む）

本校の生徒は、授業・学校行事・委員会活動・部活動に落ち着いて取り組もうとする雰囲気があり、どの学年においても教育活動に意欲的に取り組むことができている。全国学力学習状況調査や県学力学習状況調査の結果から、全国や県の平均を上回る教科があり、昨年度からの伸び率も全体的に高まっている傾向にある。一方で、個別に支援を要する生徒も各学級に在籍している状況もあるため、今後も継続的、組織的な支援を行い、個に応じた指導の拡充を図ることで、生徒一人ひとりがお互いを認め合える雰囲気を維持できるように指導する。

幼保小中を一貫した教育について、昨年度の委嘱研究の内容を土台として、自己肯定感・自己有用感を高めるための学級経営や授業の改善を図ることができた。また、朝のあいさつ運動や小中音楽朝会、小６体験授業などの小中連携の交流も計画的に実施することができた。近隣地域の幼保の各園とも連絡協議会等で、各校の取組を共有したり、今後の連携についての意見交換を行ったりすることができた。今後も引き続き、本校の特色を生かした魅力ある学校運営を行い、学校教育目標の達成に向けて全職員で協働して教育活動に取り組んでいく。

６　次年度の改善策

本校においても、配慮を要する生徒や不登校傾向のある生徒の在籍率が全県の平均より高いため、より一層の個に応じた指導の拡充を図る必要がある。教職員だけでなく、相談員、SC、SSWや関係機関との連携を密にし、生徒の実態や発達段階に応じた計画を継続していきたい。

本校においても教員の働き方改革のより一層の推進を図り、教職員の負担軽減策を講じていくことが課題である。日課の見直しや学校行事の精選、デジタル化の推進を積極的に進めることで、教職員の在校時間等の減少につなげていく。また、経験の浅い職員も少なくないため、指導力を向上を目的とした研修の充実や相互での授業参観の機会の確保を行い、教職員としての資質の向上を図り、生徒一人ひとりに還元できるようにしていく。

安全面においては、依然として校舎や設備の老朽化が見られるため、日々の安全点検や安全指導を徹底し、大きな事故の予防に努めていく。また、教職員事故の未然防止に努めるため、職員研修にも力を入れ、生徒・保護者・地域から信頼される学校づくりに励んでいく。